



何以結黨

完



114
A 299

何以結党

我党

断然其主義ヲ明示シ判然其尚ヲ示ヨ定

ムナルヘカラス而シテ其主義ハ渺漠渾沌タル

モノニ非ラスシテ必ス判別明知スヘキモノナ

ルヘシ又我党尚ヲ示ノ主義ハ現時暫且ノモノ

ニ非ラスシテ億萬斯年ニ傳フヘキモノタルヘ

シ前言ヲ及覆ヒテ之ヲ謂ヘ我党尚ヲ示ノ規

模ハ壯恢遠大ナルヲ要シ其施ス所ノ秩序ハ周

密近切ナルヲ貴トフ故ニ我党ハ先ツ其所操ノ

大主義ヲ一定シ漸ク之ヲ時間ノ重キモノニ成

大正十一年四月

大正十一年四月

東洋書局

用シ財政ノ事ハ此ノ如クスヘシ外交ノ事ハ此
ノ如クスヘシ某ハ以テ如ク某ハ彼ノ如シト明
示スヘシ蓋シ大主義ニシテ未タ之ヲ定メス唯
夕隨時ノ問業ニノミ應對シテ其說ヲ立テハ所
操主義、遠大吐悵ナラサルカ為、過々政敵
シテ我永久持重ノ謀慮ナキヲ曉ラシメ又我党
所說ノ前後相撞着スルアリテ自說相違ノ大敗
ヲ政論ノ戰場ニ取ルコトアレハナリ又其大主
義ヲ示ス、^標止マリテ時間ノ細巨ニ及ハサ
ルトキハ所謂主義ノ渺漠トシテ時事ニ近切ナ

ラサルカ為メ自カラ世人ノ感動ヲ惹クニ由ナ
ク又政敵ノ心ヲ奪フニ便ナラス共ニ雄力ヲ政
論ニ奮リ勝ツ政事ノ上ニ制スル^所アラサレハ
ナリ今余ヲ以テ之ヲ觀レハ今ノ政府ハ稍々時
間ノ細巨ニノミ應對スルノ実アルニ近ク自由
党ハ稍々唯其大主義ヲ示スニ止マリテ時間^間
細巨ニ及ブ^レ能ハサルカ如シ唯夫レ然リ故ニ
今ノ政府ハ其措置前後ニ矛盾シ又遠永久持、
謀ナク自由党ハ其所為時人ノ感動ヲ惹キ政敵
ノ心ヲ奪フニ足ラス共ニ其力ヲ異日ニ振フコ

ト能^キナルヲ觀ル是ヲ以テ我党ハ此二者ノ所
為ニ及シ一ハ以テ遠永久持ノ虞ヲ為シ一ハ以
テ隨時近切ノ謀ヲ為サ^ルヘカラス
我党ノ旆旗ヲ建ツルハ最モ其機會ヲ擇ハサル
ヘカラス而シテ其機會ハ人心ノ^和渙散セサル以
前ニ放ラ之ヲ查出スルヲ要ス惟^テニ開拓使繼
續ノ問題ノ如キハ或ハ我党ノ乘シテ我々旆旗
ヲ建ツヘキノ機會ナラン乎

我党ハ其旆旗ヲ建ツルノ時ニ於テ一大新聞ヲ
發兌シ以テ我カ^主所^在ノ^社在^載ヲ天下ニ告示シ又

政敵ト^其雌雄ヲ決スルノ器具ト為スヘシ
我党ハ苟モ時好ニ合ハス^ト為スヘカラス苟
モ時好ニ合ハス^ト為セハ能ク一時ノ盛大ヲ
僥倖スルヲ得ヘシト^是ハ^既ニ時好ノ為メ
ニ我々守操ヲ乱ルモノナリ異日時好一變セハ
其時ニ放^テ我党ハ如何シク之ヲ處ス唯其主義
ヲ愛スルノ醜態ヲ暴露スルノ一事アル^ニ故
ニ我党ハ我カ守操ノ主義ヲ一定シ決^シテ時好
ノ為メニ之ヲ動カスヘカラス設^レ目下ニ一人
ノ賛成者ナキモ我党ハ我所信ノ主義ヲ操^テ我

カ尚フ所ト爲スベシ前言ヲ及覆シテ之ヲ言ハ
ハ我党ハ自ラ日本ノ輿論ヲ導キ輿論ノ爲ニ
導カルヘカラス又更ニ之ヲ再言エレハ我党ハ
我カ主義ヲ以テ日本ノ輿論ヲ作り之ヲ以テ日
本ノ改良ヲ謀ルヘシ惟フニ若シ我党ニレテ日
本ノ輿論ヲ制スルコト能ハス輿論我ニ從ハカ
ルトキハ是レ我党ノ智畧ホタ足ラサレニ由ル
ナリ我党ハ宜シク其智畧ヲ奮ヒ忍耐久持シテ
我党ノ主義ヲ実行スヘシ
我党ハ苟モ党人ヲ求ムルコトヲ爲スヘカラス

苟モ党人ヲ求メテ党派ノ入衆忽チニ夥多ヲ致
シ一時俄カニ盛大ニ似タルノ觀アラシ然レト
モ是レ所謂億萬ノ心ナルモノニシテ到处乱
臣十人アルノ勝レルニ若カス且ツ其人ヲ擇ハ
スシテ漫リニ之ヲ取レハ未應スル者ノ中間々
僥倖ヲ企圖スルモノアリテ戰勝ノ後之ヲ處ス
ルニ難スルコトアリ聞ク今ノ政府既ニ之ヲ失
スト我党宜シク之ニ鑑ミルヘシ
我党ハ結合ノ堅固ナラシコトヲ謀ルカ爲メ党
中ノ嫉妬心ヲ滅殺スルヲ勉メサルヘカラス夫

レ彼此相輕シ巨ニ相妬ムハ邦人短所ノ最ナル
モノナリ然リ而シテ斯短所ニシテ能ク補綴ス
ルヲ得サレハ人々孤立シテ相結フ事能ハス
覺派ノ強大永續得テ期スヘヤラサルナリ故ニ
我党ハ勉メテ党中ノ嫉妬心ヲ減殺スルヲ務メ
以テ一党ノ結合ヲ強カシメサルヘカラス願フ
ニ彼此相輕シ相妬ムハ原ト多ク人々皆ナリ自カ
ラ其切ヲ建テ各ヲ博セント欲スルニ根サス是
ヲ以テ我党ハ預シメ其為スヘキノ事業ヲ分子
党人ノ才識智力ニ應シ各々其局ニ當ラシムヘ

シ今又覆シテ前言ヲ謂ハハ我党ハ預メ政務ヲ
大別シ若シクハ理財若クハ外交若クハ執法等
トシ党人ノ所長ニ執テ各々其方面ニ當ラシメ
縦マニ其技倆ヲ伸ヌヲ得セシムヘシ惟フニ
我党ニシテ能ク斯ノ如クスルヲ得党人ヲシテ
各々自カラ好シテ其事ヲ執ラシヌハ内ニ以テ
党中相妬ムノ陋弊ヲ避ルヲ得外ハ以テ活潑有
為ノ氣象ヲ示ヌヲ得ヘシ
我党ハ勉メテ其品行ヲ正フセサルヘカラス願
フニ品物ノ端正ナルハ直接ニ政界ヲ利クスル

ノ效ナシト雖モ原ト是レ人心ヲ驚クノ一大要
器ナレハ間接ニ政界ヲ信セシムルノ用アル多
クシ老西郷ハ其謀其畧遠ク人ニ超越スルニ非
ラス唯其品行ノ端正ナル既ニ世人ノ信用ヲ博
ス故ニ一呼シテ數萬ノ衆集マル我党今宜シク
其故智ヲ襲クヘシ

我党ハ地方ノ人心ヲ畧取スル為メ機ニ乘シテ
人ヲ各地ニ派遣シ我カ主義ノ播殖ヲ謀ラサル
ヘカラス而シテ其順序ハ東北地方ヨリシテ中
央ニ及ホシ中央ヨリシテ以テ西南地方ニ及ホ

シ各々先ヨリ其地負望ノ人ヲ求メテ之ニ就テ我
カ主義ノ根脚ヲ下シ之ヲシテ徐ニソノ人心ヲ
収攬セシムヘシ
我党ハ中等人ノ屬望ヲ得ルヲ勉ムヘシ必スシ
モ上等人ノ屬望ヲ要セス又心スシモ下等人ノ
屬望ヲ要セス抑スルニ泰西諸邦ニ在リテハ大
抵下等人種ノ屬望ヲ得ルヲ以テ政事家ノ秘訣ナ
リト為ス然レトモ我邦今日ノ事情自カラ泰西
各土ト同シカラス中等ノ人種今現ニ日本ノ輿
論ヲ制ス故ニ我党ハ此種族ノ屬望ヲ得ルヲ勉

ム^ル顧^ルフニ我党ニシテ能ク中等八種ノ属望
ヲ負ヒ漸ク之ヲ涵養スルヲセハ之ヲ以テ上下
二種ノ属望ヲ誘致スルヲ得^ル事^ニ甚^ク難^クカラサ
ルヲ信ス

我党ハ暗々地ニ在廷局外ノ官吏ヲ誘引シ之ニ
據テ内閣評議ノ脈絡ヲ探知スヘシ顧フニ此事
タル稍々卑怯ニ近シト虽モ我邦ノ如キ政事ヲ
開示セ^ルハ國土ニ在テハ勢ノ終ニ止ムヘカラサ
ルモノトス又各地方ノ警察官ヲ誘引シテ我党
タラシメ之ヲシテ我主義ヲ地方ニ播殖スル

ノ妨碍ヲ為ヌナカテシムヘシ
我党ハ漸ク我カ主義ヲ擴充シ之ヲ兵士ニ及ホ
シ其心ヲシテ我党ニ服従セシムヘシ此意敢テ
兵力ニ藉テ我主義ヲ實行セント欲スルニアラ
ス唯タ政敵ノ兵力ニ藉テ我党ヲ抑壓スルヲ豫
防スルノ具ト為サント欲スルノミ而シテ之ヲ
實行スルノ手段ハ先ツ將校士官ノ不平ヲ抱ク
モノヲ誘キ我主義ヲ信セシメ^{徐ニ}兵士ニ浸潤セシム
ル在リ是事モ亦稍々卑怯ノ嫌アリ然レトモ本邦
今時ノ事情勢然ラサルヲ得ス

今又因ニ我党ノ大主義ヲ告^示ル文^ヲ刊^シシ^茲ニ^供託^ス
大詔一降天下ノ決定マル我儕今時ノ日本人民
ハ萬世一遇ノ盛時ニ^遭ヒ今將^リニ立憲ノ治下
ニ生息セントス顧^フニ此際如何ノ經畫ヲ為シ
如何ノ職分ヲ盡シ日本人民タルニ愧ツルコト
ナキ乎他ナシ唯一團ノ政党ヲ結ビ相集リ相援
ケテ政治ノ針路ヲ指點シ其真正ノ方嚮ニ向ハ
シムヘキ耳来レ我カ大日本國民ヨ来リテ爾ノ
政党ヲ結ビ爾カ日本國民タルノ職分ヲ盡セ^レ
幸福ハ人類ノ以テ得^ンコトヲ期スル所也然レ

トモ少数專有ノ幸福ハ我党コレヲ排ス蓋シ是
ノ如キノ幸福ハ所謂ル利己ノモノニレテ我党
ノ所謀ナル大日本全般ノ幸福ニ反スレハ也大
日本全般ノ幸福ハ我党ノ以テ謀ルヲ期スル所
也然レトモ一時暫且ノ幸福ハ我党コレヲ卻ク
蓋シ是ノ如キノ幸福ハ所謂ル遺棄ノモノニシ
テ我党ノ所謀ナル遠永廣大ノ幸福ニ反スレハ
也是ヲ以テ夫ノ一二党人ノ我日本ヲ專ラニシ
其全般ノ幸福ヲ蔑ニスルモノハ我党ノ目シテ
以テ公敵ト為ス所也是ヲ以テ夫ノ目前ノ苟安

ヲ偷ミ逐永ノ禍害ヲ顧ミス一時ヲ苟クモスル
モノハ又我党ノ目シテ以テ公敵ト為ス所也我
党ハ實ニ大日本全般ノ遠永ニ享有スヘキ幸福
ヲ謀ルヲ以テ斯政黨ヲ團結スルノ最大目的ト
ス未レ我カ同感ノ士未リテ我政黨ヲ結ビ大日
本全國ノ幸福ヲ謀ルアル

人生心身ノ自主ハ我党ノ保全シテ我最大目的
ニ達スルノ階梯ト為サントスル所也蓋シ吾人
ニシテ心身ノ自主ヲ保全スルヲ得ス方サニ束
縛セラレテ自由ナラサレハ其活動ノ能力ヲ阻

攔セララルヒカ為メ夫ノ最大目的ニ向テ動作ス
ルノ利便ヲ失却スレハ也是ヲ以テ我党ハ勉メ
テ人生心身ノ自主ヲ擴張癸達^スルヲ務メ若シ
コレヲ妨碍スルモノアラハ其剛柔衆寡ヲ問ハ
ス皆ナ必ラス之ヲ排斥シ少シモ假スコトナカ
ルハシ我党ハ實ニ人生心身ノ自主ヲ保全シ我
最大目的ヲ達スルノ階梯ト為サントス未レ我
党ノ人未リテ斯政黨ヲ強大ニシ我カ日本國人
ノ自主ヲ擴張癸達スルヲ謀レ
推理ハ我党ノ依頼シテ我カ施ス所ノ順序ヲ定

メント歎スルモノ也蓋シ道理ニ依ラズヲ推窮
スルニアラサレハ吾人車体ノ正邪曲直ヲ判ス
ルニ由ナク到處治理ノ宜シキヲ失スルコトア
ルヘケレハ也是ヲ以テ夫ノ我見ニ執着シ其私
意ヲ肆マニニセント歎スルモノト如キハ我党
ノ部ケテ共ニ其進路ヲ與ニセサルモノナリ又
方便ハ我党ノ利用シテ其定ムル所ヲ實施スル
ノ途ヲ為サントスルモノ也蓋シ方便ヲ利用セ
スシテ遠ニ其定ムル所ヲ實施セント欲スレハ
往々ニシテ社會ノ秩序ヲ紊乱シ却テ其進行ヲ

妨碍スルモノアルヘケレハ也是ヲ以テ夫ノ皇
室ヲ無シ直ニ平等ヲ謀ラント欲スルモノト
如キハ我黨ノ却ケテ共ニ其進路ヲ與ニセサル
モノ也我黨ハ實ニ推理ニ依テ其順序ヲ定メ方
便ヲ利用シテ其定ムル所ヲ實施セントスル
我黨ノ人未リテ^天地ノ道理ヲ推窮シ以テ我順
序ヲ一定シ又未リテ隨時ノ方便ヲ利用シ以テ
其定ムル所ヲ實施セヨ
之ヲ要スルニ我儕ハ斯一團ヲ政黨ヲ結ビ六日
本全般ノ遠永ニ享有スヘキ幸福ヲ謀リ人生心

身、自主ヲ保全スルヲ務メ推理シテ順序ヲ定
メ方便ヲ利用シテ之ヲ天下ニ施サントス來シ
我大日本國民ヨ來リテ共ニ爾ノ職分ヲ盡シ爾
ノ事ヲ計畫セヨ焉

明治十四年十二月十六日

榊 手記



